

最終回

まえをけいこ

クラージュ日記

26

26回を迎えるクラージュ日記も、今号で最終回。最後を飾るのは、まえをさんの感謝の気持ちが伝わってくるような、赤・白クラージュです。

クラージュ・文/まえをけいこ。撮影/澤崎信幸(主婦の友社写真室)

赤と白のクラージュ

4年余りにわたって、連載させていたクラージュ日記。最終回のモチ、は何かがなるとても嬉しいが、華やかに、おめでたく、赤と白のあれこれ集めてみました。でも、地味好きなため、作品を作ることも、なんだか寝ぼける配色も、がちなのですが、赤だけは別りんごやいちごを連想させる、王道の愛らしさ、根せておくすんでも濁っても、赤にはどこかあらた

つた、おめかし感があるのです。あつかましい派手さではなく、もどと素直で単純な性質の、個性が描く花壇の花のような、明るくお祝いの気持ちを束ねたようなクラージュがでさ上がりました。作品ノートを見返すと、たくさんその時々のおもクラージュさっているようです。長い間ありがとうございました。またどこかでお会いできますように。

(クラージュに使ったもの)

上から、東北沢の木曜館で買ったドーナツの造花、コットンレース(日暮里でほろか街に買ったもの)、ポーランドの切手2種、竹久夢二ハガキより自撮、チョコの日あくりとよみえり、うさぎと切手箱の木、文洋の描かれたイタリアのお菓子の包み紙、クラージュ下にも、純粋の袋、ラッピング用の赤い紐リボン、お花モチーフのオーナメント、フランスのレース(赤・白)の城の切り抜き、東京の古いマシンのラベルより、アメリカのヴァンティコットン、コサージュの材料より赤いレース、鳥モチーフのオーナメント、チョコで描いたハガキと切手、お誕生日用のろうそく、芝罘の赤いステッチリボンは、銀行品、お花のボタンは、フランスのもの、クラージュ下「とりおのなる木」の幅広テープは、下町のデパートで買った。下に載せたのは私物の古



edam & edam